

No.7 発想の飛躍 3**異形状の多数個取り**

同形状の多数個取りが可能であれば、異形状の複数個取りも可能であると考えるのは必然である。

ただし、隣あうワークの形状—ここでは円形状と限定する—の外径差が大きいと削り残し、加工時に工具が隣のワークに食い込む等の問題が発生する場合がある。

解決するには、加工データ作成時にワークの配置を入念に検討する必要がある。

パス表示で問題がなければ、丸形状も角形状も混在した加工が可能となる。

